受注できるようになっ た」と話すのは造形部・ て、これまで受注するこ が出来なかった案件を 「ロボット切削によっ の設計・製造を手掛けて を始めた。 使して、新しい価値作り おり、デジタル技術を駆 同社の始まりはマネキ

3Dラボの浅野和博室 から店舗、オフィス、住 長。同社はマネキン製造 唇など様々な空間のブラ ディングやプロダクト 上からFRP(ガラス繊 を取り、さらに、石膏の る職人が粘土でマネキン ン製造。原型師と呼ばれ の原型を作り、石膏で型

り生産する。1つ1つが 3次元CAD/CAMや 再び原型(生産型)を作りデジタル技術に着手。 維強化プラスチック)で 作を作ってもユーザーの 経て生産されるため難易 納期も長かった」という。 度作り直すことになり、 イメージと異なれば、再 度も高い。「これまで試 手作業であり複数工程を 3Dスキャナー、3Dプ 3Dモデルを活用し、入 ユーザーとの打合せ時に ロボット切削だった。 を研究。目を付けたのが リンタを導入し、新工法 そこで、4年前から3

念にニーズを汲み取り、 べてチャレンジ。ドリル

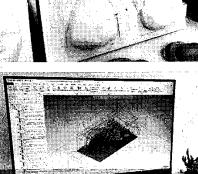
ラーを繰り返した。「す astercam K を採用し、トライ&エ UKAの産業用ロボット tmaster」や「M 操作用ソフト「Robo ポートを受け、ロボット ト。ゼネテックからサ なく、ゼロからのスター 野室長は語る。元々切削 間と大幅に短縮した。 ル品や生産型を作ること ロボット切削でオリジナ 加工やロボットの知識は 簡単ではなかった」と浅 で、納期も早ければ1週 「ここまでの道のりは 露した。 らパールイデアになっ 更し、パールマネキンか 操作に慣れてきた」。ま 行錯誤で、最近ようやく 度など、この3年間は試 慣れたロボット操作を披 だ、ロボットとワークの いため、回転数や送り速 に苦労するというが、 トの軌跡設計、加工条件 同社は今年、社名を変 置関係や最適なロボッ

やエンドミルの知識がな す。マネキン製造はニー として活用したい」と話 ダクト本部の担当者は ズも多種多様であり、 ト切削などを営業ツール た。今後について、プロ 「3Dデジタルやロボッ 多

と。これまでアパレルが ができる。「当社のコン デジタル技術やロボット セプトはすべての空間や までにない形や複雑な形 形をプロデュースすると 状ワークを作り出すこと を使いこなすことで、 品種少量生産型。それを

ロボット切削風景





プログラム画面

太

・デア 岐阜県瑞穂市野田新田4045 058・326・3720 社

話 電

電 話: 058・326・3720 代表者:後藤康弘社長 創 業: 1956年 従業員: 193人 事業内容: 商業空間やイベント空間の 企画・デザイン・設計・施工、マネキンや 陳列什器などデザイン・設計・制作。

作りなど新市場の開拓を メインだったが、新しい | 形技術でキャラクター

発行元「株式会社 日本産機新聞社」より記事の二次利用許諾済み